

# 肢体不自由学級国語科学習指導案

児童 4年 1名

授業者 小野寺良子

- 1 単元名 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう  
中心学習材名 ごんぎつね（光村図書 4年下）

## 2 単元について

### (1) 児童について

これまで児童は、登場人物の行動や会話、挿絵を基にしながら想像を広げる学習を行ってきた。

「白いぼうし」では、場面と場面をつなげて読み考えたことを話す学習を通して、文章の叙述から登場人物の行動を見つけ、主人公の気持ちを考えることができるようになった。しかし、「いつ、だれが、どうした」等が、記憶に残らないため、話の全体を捉えて心情を問う「どうして女の子は、松井さんに行っちゃおう。と言ったのでしょうか。」のような問題に答えるのは難しかった。「一つの花」では、場面の様子をくらべて読み、感想を持つ学習をした。初発の感想を書いたり各場面を読み取ったりする学習を通して、戦争という背景から登場人物の気持ちなどを想像して話す力が身についた。しかし、物語全体の時間の経過が捉えられず、戦争中と戦後の生活の様子をまとめた表を参考にしても、どの場面から戦後の生活なのか理解することが難しかった。「山ねこ、おことわり」では、松井さんの気持ちの変化を心情曲線で表すことによって、松井さんの気持ちがどこで大きく変化したのかを見つける学習をした。「白いぼうし」で学習した松井さんの人柄をもとに、気持ちの変化に気付くことができるようになりつつある。

### (2) 学習材について

本単元「気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう」では、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができることを主たるねらいとしている。

中心学習材「ごんぎつね」は、6場面構成で「1」から「5」までは主人公の「ごん」の視点で書かれており、「ごん」の心情やその変化が捉えやすく、場面の展開に沿って人物の気持ちの変化を想像しながら読む力を育てるのにふさわしい作品といえる。ちょっとしたいたずら心が思わぬ影響を及ぼしてしまうこと、せめてもの償いをしようという思いなど、「ごん」のひたむきな思いや行動に子どもたちは寄り添いながら読むことができると考える。また、登場人物の気持ちが、豊かな情景描写によって表現されている。それぞれの場面ごとの登場人物の気持ちを想像するにとどまらず、物語全体を通じて複数の叙述を結び付けることで、ごんの気持ちの変化や、ごんと兵十の気持ちのすれ違いを読み取ることができる。そして登場人物に対する自分なりの考えを友達と交流し、共有することで、一人ひとりの感じ方に違いがあることに気づき、自分の考えをより深めたり広げたりできると考える。

### (3) 指導にあたって

指導にあたっては、次の三点に留意していく。

一点目は、本単元で育成を目指す資質・能力を明確にした単元構想である。本単元で育てたい資質能力は、気持ちを表す言葉や、情景の描かれ方に気を付けて読み、感想や考えをもつことである。構造と内容の把握の段階では、時間や場所を表す言葉に着目したり、挿絵を操作したりする活動を行い、物語の大体をつかむ。精査・解釈の段階では、主人公「ごん」の行動や叙述に即した語句の理解や「ごん」の気持ちを想像する力を身につけるため、挿絵と文章を照らし合わせたり、表情の選択肢のカードや「ごん」と「兵十」の心の距離を心情曲線で表現したりする活動を重視する。考えの形成の段階では、「ごん」の気持ちを中心にまとめた自分の考えを発表したり友だちの考えを聞いたりすることで、感じ方の違いに気付くようにする。

二点目は、考えを深める工夫である。主人公「ごん」の心情を具体的に想像できるようにするために、挿絵や表情カードの活用、考えを広げるために役割読みを行う。また、ワークシートを活用し、挿絵と文、表情カードと文の照らし合わせを行う。

三点目は、主体性につながる自己評価の観点である。「いつ、だれが、どうしたかに着目できたか」「ごんと兵十の気持ちがどこで変わったかをとらえられたか」等の自己評価をしていく。教師による他者評価を行い、できるようになったことを実感させ、叙述を根拠に自分の考えをもち、話すことができるようにしていきたい。

### 3 育てたい資質・能力

<p>登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の結びつけて具体的に想像すること。</p> <p> 特別な言葉に着目する  設定 「一つの花」</p>	<p>気持ちを表す言葉や、情景の描かれ方に気を付けて読み、感想や考えをもつこと。</p> <p> 人物や物語に対する考えを深める  情景 「ごんぎつね」</p>	<p>登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結びつけて具体的に想像すること</p> <p> 登場人物の変化と、出来事の関係をとらえる 「プラタナスの木」</p>
--	--	---

4 言語活動 物語を読み、考えたことを話し合う。

### 5 単元の指導計画

#### (1) 単元の目標

[知識及び技能]	[思考力・判断力・表現力等]	「学びに向かう力、人間性等」
<p>① 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。</p> <p style="text-align: right;">((1) オ)</p>	<p>① 人物の気持ちや変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像することができる。(C (1) エ)</p> <p>② 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。</p> <p style="text-align: right;">(C (1) カ)</p>	<p>① 言葉がもつよさに気づくとともに幅広い読書をし、国語を大切にしたいや考えを伝え合おうとする。</p>

#### (2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。</p> <p style="text-align: right;">((1) オ)</p>	<p>① 「読むこと」において、人物の気持ちや変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像している。</p> <p style="text-align: right;">(C (1) エ)</p> <p>② 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づこうとしている。</p> <p style="text-align: right;">(C (1) カ)</p>	<p>① 進んで人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて、具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを話し合おうとしている。</p>

(3) 単元指導計画・評価規準 (全12時間)

次	時	学習過程	○学習活動 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習活動</span> 着目する言葉 (支援)	評価規準及び評価方法
一	1 交流	構 造 と 内 容	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">学習計画を立てよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; display: inline-block;">着目する言葉</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ P11の「単元扉」のリード文や挿し絵、題名をもとにどんなことが起こりそうか発表する。</li> <li>○ 朗読CDを聞き、初発の感想を書き、交流する。</li> <li>○ 「気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう」の学習課題を設定し、P30の「学習」をもとに学習の進め方を確認する。</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     ごんぎつねの行動や言葉、挿絵を見ながら、誰がどうしたことが心に残ったかを感想に書く。                 </div> <p>(支援) 話の内容が思い出せないときには、挿絵の並べ替えをする。</p>	<p>[思考・判断・表現②] 記述 朗読CDを聞き、心に残ったことを書いているか確認する。</p> <p>[主体的に取り組む態度] 観察・発言 単元目標を理解し、進んで「ごんぎつね」を読んで、学習計画を立てようとしているか確認する。</p>
	2 個別	把 握	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ごんぎつね」を読み、内容の大体をとらえる。</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     ごんぎつねの話の流れや出来事確かめ、「ごんが、いつ、どうしたのか」に気をつけて話の大体をつかむ。                 </div> <p>(支援) 挿絵の順番を正しく並び替え、「だれが、いつ、どうした」という文章と照らし合わせ、物語の出来事を大まかにとらえる。その際、気持ちを考えるときに「登場人物の言ったことやしたこと」は、気持ちを表していることを確認する。</p>	<p>[思考・判断・表現②] 観察・発言 話の流れや「だれが、いつ、どうしたのか」をとらえ、話の大体をつかんでいるか確認する。</p>
	3 交流		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ごんがどんなきつねか、また、疑問に思ったこと、みんなと考えたいことを考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「ごん」はどんなきつねなのか話し合おう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ごん」はどんなきつねか、また疑問に思っていること、みんなと考えたいことを考え、学習計画を立てる。 ひとりぼっちの小ぎつね (大人の小さなきつね) いもをほり散らかしたり・・・いろんなことをしました びよいと草の中から飛び出して・・・ 下手の川の中を目がけて・・・ びっくりして飛び上がりました 一生けんめいににげていきました ごんはほっとして・・・</li> <li>○ 学習課題を確認する</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     ごんと兵十の気持ちには、どんな変化があったのか、読んだことをもとに考えたことを伝え合おう。                 </div>	<p>[知識・技能①] 観察・発言 ごんの様子、行動や性格を表す語句をとらえているか確認する。</p> <p>[思考・判断・表現①] 記述 ひとりぼっちのごんの気持ちを想像し、ふきだしカードに書いているかを確認する。</p>

<p>4 . 5 . 6 . 7 . 8</p>	<p>○ 「1」の場面について、ごんが兵十にしたこととそ のときのごんの気持ちをまとめる。</p> <p>ひとりぼっちのごんが、兵十にいたずらをした気持 ちを想像する。</p> <p>〈支援〉ごんの行動や言葉にサイドラインをひき、挿絵 と照らし合わせ、気持ちカードも使いながらごん の気持ちを想像する。 兵十のごんに対する思いや呼び方、その理由に ついては触れる。</p> <p>○ 「2」の場面について、ごんが兵十にしたことと、 そのときのごんの気持ちをまとめる。</p> <p>兵十のお母さんが亡くなったことを知り、いたずら したことを後悔し、反省しているごんの気持ちを想 像する。</p> <p>・空はからっと晴れて、もずの音が キンキンひびいていました。 ・ごんは、ぴょいと草の中から飛び出して、 ・兵十のかげぼうしをふみふみ行きました。</p> <p>〈支援〉挿絵とごんの表情や行動、言葉にサイドライン をひき、挿絵と照らし合わせる。 ごんと兵十になり、役割音読をする。 反省に気づかないときには、後悔と反省の表情 のカードの工夫をする。</p> <p>○ 「3」の場面について、ごんが兵十にしたことと、そ のときのごんの気持ちをまとめる。</p> <p>○ごんが兵十に悪いことをして、そのつぐないに今度は山 で栗を拾ってきてあげようという気持ちを想像する。</p> <p>〈支援〉ごんがしたことを表に整理し、ごんがいわしをと って兵十の家に入れたこと、山で栗をたくさんひろ ってきてあげたことについて考えるため、役割音読 をする。</p> <p>○ 「4」と「5」の場面について、ごんの行動や気持ち の変化をまとめる。</p> <p>兵十への償いの気持ちが届いているかを確認したく なったごんの気持ちを想像する。</p> <p>〈支援〉役割音読や動作化を取り入れ、人物の距離感や位 置を確認する。</p> <p>○ 「6」の場面について、兵十が知ったことと、そのと きの兵十の気持ちをまとめる。</p> <p>明るる日も兵十にくりを届けに行ったごんの気持ち の高まりとごんを撃ってしまった兵十の気持ちを考え る。</p> <p>〈支援〉兵十が見た物の絵を並べ替え、「ごん」の兵十への 気持ちの高まりを心情曲線で表す。 それに対する兵十の言葉や様子から兵十の気持 ちを想像するために、役割音読をする。</p>	<p>[思考・判断・表現①] 記述・発言 挿絵と文章を結び付けたり比べた りして、ごんの気持ちの変化を読 み取っているか確認する。</p> <p>[思考・判断・表現①] 音読・記述 情景描写や会話等の叙述をもとに して、ごんの気持ちを想像し ながら音読したり、ふきだしカー ドに書いたりしているか確認する。</p> <p>[思考・判断・表現①] 音読・記述・発表 役割読みをし、心の中の言葉の意 味を理解し、ごんの気持ちを想像 して音読したりふきだしカードに 書いたりしているか確認する。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度] 観察・発言・記述 自分なりの問いをもって文章を 読んだり、より豊かにごんの気 持ちを想像したりしようとして いるか確認する。</p>
--	---	--

二	9 本 時	精 査 ・ 解 釈	<p>○ 「ごん」と「兵十」の気持ちには、どのような変化があるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ごん」が「兵十」について思ったり考えたりしたこと</li> <li>・「兵十」が「ごん」のことを表すときに使った言葉</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>教科書の挿絵と学習プリントを使って、ごんと兵十の気持ちの変化を話し合うことができる。</p> </div> <p>〈支援〉書きためてきたごんの気持ちの一覧表を見ながら、兵十がごんに対する気持ちが変わったところに気づくために「はじめ・きっかけ・おわり」のまとめを手がかりとする。</p> <p>「土間にくりが固めておいてあるのが目につきました。」</p> <p>「ごん、おまいだったのか。」という文章から、挿絵にない兵十の表情を想像できるように選択肢カードを用意する。</p>	[思考・判断・表現] 記述・発言 友達の感想や考えを聞き、考え方に違いがあることに気づいているか確認する。
三	10 交 流	考 え の 形 成	<p>○ 決めたテーマで、物語や登場人物についての考えをまとめる。</p> <p>物語や人物についての考えたことをまとめる。</p> <p>〈支援〉ごんの様子や行動に着目させるため、教科書にサイドラインを引くように声をかける。そのとき兵十はどう思ったかを想像できるように、表情カードを用意する。</p>	[思考・判断・表現②] 記述・発言 友達の感想や考えを聞き、感じ方に違いがあることに気づいているか確認する。 [主体的に学習に取り組む態度] 記述 自分なりの問いをもって文章を読んだり、友達の発表を聞いたりして、より豊かにごんと兵十の気持ちを想像しようとしているか確認する。
四	11 ・ 12 交 流	共 有	<p>○ 考えたことを発表し合い、自分の考えを深める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分なりのテーマで考えたことをまとめる。</p> </div> <p>〈支援〉テーマにそって、必要なカードを用意する。</p> <p>○ 単元の学習を振り返る。</p> <p>単元全体のふりかえりシートをもとに、自分ができるようになったことに気づく。</p> <p>〈支援〉言葉や動作から気持ちを考えたり、みんなと考えを交流したりしてできるようになったことを確認する。</p>	[思考・判断・表現②] 記述・発言 友達の感想や考えを聞き、考え方に違いがあることに気づいているか確認する。 [主体的に学習に取り組む態度] 観察 自分なりの問いをもって文章を読んだり、友達の発表を聞いたりして、より豊かにごんと兵十の気持ちを想像しようとしているか確認する。

## 6. 本時の指導

### (1) 目 標

○全体を通じて、ごんと兵十の気持ちの変化について考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。

### (2) 評価規準

・友達の感想を聞き、感じ方などに違いがあることに気づいている。[思考・判断・表現]

<A 児への手立て>

・これまで書きためたごんの気持ちを一覧表にし、視覚的にごんの気持ちがどこで変化し、兵十の気持ちもどこで変化したのかを分かるようなワークシートを準備する。考えがもてないときには、教科書に引いたサイドラインや挿絵を手がかりにごんの気持ちの変化について気がつけるようにする。

### (3) 着目させたい言葉

本時のねらいは、物語全体を通じて、ごんと兵十の気持ちの変化について考えたことを共有し、一人一人の感じ方に違いがあることに気づくことである。

本単元の資質・能力「気持ちを表す言葉や、情景の描かれ方に気をつけて読み、感想や考えをもつこと」を育てるために、次の言葉に着目させる。

～目につきました。びっくりして、ごんに目を落としました。

「ごん、おまいだったのか、いつもくりをくれたのは。」

火縄じゅうをばたりととり落としました。

(4) 展 開

段階	学習活動 ■主発問・指示	期待する子どもの姿 ・留意点	〈支援〉【評価】
つかかむ	1 音読する 2 学習課題の確認を把握する 3 課題解決の見通しを立てる	○場面ごとに読み取ってきたごんの気持ちの変化を全体的に見る。 ○兵十がごんのことを表すのに使ったことばの変化を見つける。	<A児への支援> ・これまで書きためたごんの気持ちをまとめた一覧表を準備する。
考える	4 自力解決する 兵十のごんに対する気持ちがどこで変わったのかを考える。	・心情曲線を書き込むシートを用意する。 ○ごんは、「あんないたずらしなけりゃよかった。」という気持ちからだんだん兵十に気持ちが寄っていったと思います。 ○兵十は、「あのごんぎつねめ」と言っているから、この時点ではまだ憎み続けていて、撃ってから「おまえ」と呼んでいることから、そこで気持ちが変わったことがわかります。	<A児への支援> ・兵十の表情を表す表情カードを準備する。
ふかめる	5 深め合う グループ交流 ■どこで変わったのでしょうか。 手立て2 交流のポイント 友達の考えと自分の考えの違いに気づかせる。 ■ごんのつぐないの気持ちは、兵十に伝わったのでしょうか。 6 まとめる ・二人の気持ちが通い合った瞬間について考えられるように、板書を工夫し課題をまとめる。	・兵十の気持ちの変化に気づけるように、「ごんぎつねめ」から「ごん」へと言い方が変わっていることを押さえる。 ○くりや松たけに気付いて、「ばたりと取り落としました」から、心が通じ合っていくのがわかります。 ○その行動から、兵十が撃ったことを後悔しているのがわかります。だから、伝わったと思います。 ○仲良くなりたいという気持までは伝わっていないと思います。 ○ごんは兵十がやっと気付いてくれて「よかった」とうなずいたのだと思います。	<A児への支援> ・ごんと兵十の表情カードを準備する。 [思考・判断・表現②] 記述・発言 ごんと兵十の行動や気持ちの変化について想像しているか確認する。 ・兵十の気持ちの変化を捉え、ごんが心を通じたかどうかを読み深めさせたい。
ふりかえる	7 ふり返る 手立て3 振り返りの観点 友達の考えを聞き、感じ方などに違いがあることに気づくことができたか。		<A児への支援> ・友だちの話を聞いて、考えが変わったり深くなったりしたことはないか、声をかける。 [思考・判断・表現②] 記述・発言 友達の考えを聞き、感じ方などに違いがあることに気づいているか確認する。